

# オイラー級数 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} = \frac{\pi^2}{6}$ に関連して

うつのみや きよし  
宇都宮 潔

数研通信 No.35 に愛知県滝高等学校の遠藤一成先生が寄せられた「 $\pi$ の近似について」と題する一文を興味深く読んだ。それをきっかけにいろいろ考えているうちに、時が過ぎ、今年も恒例の「某予備校の入試研究会」を迎えた。そのとき聴いたことなどを含め、頂いた資料を参考にして、まとめてみた。

いずれも良く練られた問題である。「無限乗積」は「高等学校の指導要領の範囲外」なので、出題されていないが、「代数学の基本定理の証明」が7年ほど前、山口大学で出題されている。今後、その観点からの「出題」がされることもあるのかもしれない。それは、型どおりに「極限操作」を前提とするかもしれないし、左のように、「定積分」の問題として出題されるのかもしれない(これらは、4.の「公式(1)」を意識した「変形」を前提とする「定積分の問題」として、出題されている)。千葉大の問題の(2)番は、いわば、東大の問題の(3)番に当たり、誘導がついている分だけ易しくなっている。東大の(3)番の  $f_{2n+1}(x)$  を  $f_{n+1}(x) - f_{n-1}(x)$  に代えれば、千葉大の(2)番と同じになる。

## 1. 99年度入試問題より

- 問題1**  $n=0, 1, 2, 3, \dots$  に対し、  
 $f_n(x) = \frac{\sin nx}{\sin x} \left(0 < x \leq \frac{\pi}{2}\right)$ ,  $f_n(0) = n$  で与えられる関数の列  $\{f_n(x)\}$  と  $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} f_n(x) dx$  からなる数列  $\{I_n\}$  とがある。
- (1)  $f_n(x)$  は  $x=0$  で連続であることを示せ。  
 (2)  $I_{n+1} - I_{n-1}$  を  $n$  の式で表せ。  
 (3)  $S_m = \sum_{k=1}^m \frac{(-1)^k}{2k-1}$  とするとき、 $I_n$  を  $S_m$  を用いて表せ。 [99 千葉大・前期]

$n$  が奇数の場合は、 $I_{2m+1} - I_{2m-1} = 0$  に気が付けば、かなり易しい。東大は、この奇数の場合のみを出題している。

$n$  が偶数の場合を解くのは、千葉大の(2)番のような誘導がないと、少し難しい。いずれにせよ

$$I_{2m} - I_{2m-2} = (-1)^{m+1} \frac{2}{2m-1}$$

などにより  $I_2 - I_0 = \frac{2}{1}$

を素通りせずに、「良く見て、計算でチェックする」ことがポイントとなる。

ちなみに、 $S_m = \sum_{k=1}^m \frac{(-1)^k}{2k-1}$  は「ライプニッツの級数」で、その値は  $\frac{\pi}{4}$  である。

- 問題2** (1)  $n$  を正の整数とする。  $-\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  の範囲において
- $$f_n(x) = \begin{cases} \frac{\sin nx}{\sin x} & -\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{\pi}{2}, x \neq 0 \\ c_n & x = 0 \end{cases}$$
- とおくことにより定義される関数  $f_n(x)$  が、連続関数となるように定数  $c_n$  の値を定めよ。
- (2)  $f_3(x)$  は  $\cos x, \cos 2x$  等を用いて表せることを示し、定積分  $\int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} f_3(x) dx$  の値を求めよ。
- (3) 任意の正の整数  $n$  に対して、定積分  $\int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} f_{2n+1}(x) dx$  の値を求めよ。 [99 東京大・理I・後期]

## 2. 論理展開

(i) 三角関数の公式

$$\begin{aligned} \cos n\theta &= \cos^n \theta - n C_2 \cos^{n-2} \theta \sin^2 \theta \\ &\quad + n C_4 \cos^{n-4} \theta \sin^4 \theta - \dots \end{aligned}$$

$$\sin n\theta = {}_n C_1 \cos^{n-1} \theta \sin \theta - {}_n C_3 \cos^{n-3} \theta \sin^3 \theta + {}_n C_5 \cos^{n-5} \theta \sin^5 \theta - \dots$$

(ii) 関数  $F(\theta) = \frac{\sin n\theta}{\sin \theta}$ ,  $G(\theta) = \frac{\cos n\theta}{\cos \theta}$  は  $\sin^2 \theta = x$  とおくとき,  $\frac{n-1}{2}$  次の関数である (ただし,  $n$  は正の奇数とする).

(iii) 無限乗積表示

$$\sin x = x \prod_{k=1}^{\infty} \left\{ 1 - \frac{x^2}{(k\pi)^2} \right\}$$

$$\cos x = \prod_{k=1}^{\infty} \left\{ 1 - \frac{x^2}{\left(\frac{2k-1}{2}\pi\right)^2} \right\}$$

(iv) ウォリスの公式

$$\prod_{k=1}^{\infty} \frac{1}{1 - \left(\frac{1}{2k}\right)^2} = \prod_{k=1}^{\infty} \frac{(2k)^2}{(2k+1)(2k-1)} = \frac{\pi}{2}$$

(v) テイラー展開

$$\sin t = t - \frac{1}{3!} t^3 + \frac{1}{5!} t^5 - \frac{1}{7!} t^7 + \dots$$

$$\cos t = 1 - \frac{1}{2!} t^2 + \frac{1}{4!} t^4 - \frac{1}{6!} t^6 + \dots$$

(vi) オイラーの級数

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} = \frac{\pi^2}{6}, \quad \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(2n-1)^2} = \frac{\pi^2}{8}$$

以下, この(i)~(vi)について考える.

### 3. 三角関数の公式

ド・モアブルの定理により

$$(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n\theta + i \sin n\theta$$

また, 二項定理により

$$(\cos \theta + i \sin \theta)^n = (\cos \theta)^n + {}_n C_1 (\cos \theta)^{n-1} (i \sin \theta) + {}_n C_2 (\cos \theta)^{n-2} (i \sin \theta)^2 + \dots + (i \sin \theta)^n$$

$$= \cos^n \theta - {}_n C_2 \cos^{n-2} \theta \sin^2 \theta + {}_n C_4 \cos^{n-4} \theta \sin^4 \theta - \dots + i({}_n C_1 \cos^{n-1} \theta \sin \theta - {}_n C_3 \cos^{n-3} \theta \sin^3 \theta + \dots)$$

実部と虚部の比較により

$$\cos n\theta = \cos^n \theta - {}_n C_2 \cos^{n-2} \theta \sin^2 \theta + {}_n C_4 \cos^{n-4} \theta \sin^4 \theta - \dots$$

$$\sin n\theta = {}_n C_1 \cos^{n-1} \theta \sin \theta - {}_n C_3 \cos^{n-3} \theta \sin^3 \theta + {}_n C_5 \cos^{n-5} \theta \sin^5 \theta - \dots$$

### 4. $F(x)$ , $G(x)$ は $x$ の $\frac{n-1}{2}$ 次の関数

公式(i)により

$$(1) \frac{\cos n\theta}{\cos \theta} = \cos^{n-1} \theta - {}_n C_2 \cos^{n-3} \theta \sin^2 \theta + {}_n C_4 \cos^{n-5} \theta \sin^4 \theta - \dots$$

$$\frac{\sin n\theta}{\sin \theta} = {}_n C_1 \cos^{n-1} \theta - {}_n C_3 \cos^{n-3} \theta \sin^2 \theta + {}_n C_5 \cos^{n-5} \theta \sin^4 \theta - \dots$$

よって,  $\sin^2 \theta = x$  とおくと,  $\cos^2 \theta = 1-x$  より,  $n=2m+1$  すなわち,  $m=(n-1)/2$  として

$$(2) G(x) = (1-x)^m - {}_n C_2 (1-x)^{m-1} x + {}_n C_4 (1-x)^{m-2} x^2 - \dots$$

$$F(x) = n(1-x)^m - {}_n C_3 (1-x)^{m-1} x + {}_n C_5 (1-x)^{m-2} x^2 - \dots$$

すなわち,  $\theta$  の関数  $F(\theta) = \frac{\sin n\theta}{\sin \theta}$ ,

$G(\theta) = \frac{\cos n\theta}{\cos \theta}$  は, ともに,  $x$  の  $\frac{n-1}{2}$  次の関数である.

したがって,  $n=2m+1$  のとき, 2つの方程式  $F(x)=0$ ,  $G(x)=0$  は, どちらも  $m$  個の解をもつから, 「代数学の基本定理」により,  $F(x)=0$  の  $m$  個の解を  $x=x_1, x_2, \dots, x_m$  とすると,

$$(3) F(x) = \frac{\sin n\theta}{\sin \theta} = c(x_1-x)(x_2-x)\dots(x_m-x)$$

と因数分解の形に表せる (以下, 関数  $G(x)$ ,  $\cos x$  の「無限乗積表示」などについては, 論理展開の都合で, 後述することとし, ひとまず, 関数  $F(x)$ ,  $\sin x$  の「無限乗積表示」などの一切について, 上の「論理展開」で, 述べることにする).

(3)式で,  $\sin n\theta=0$  より,  $\theta = \frac{k}{n}\pi$  であるから

$$x_k = \sin^2 \frac{k}{n}\pi \quad (\text{ただし, } k=1, 2, \dots, m)$$

また,  $x=0$  のときは,  $x=\sin^2 \theta=0$ ,  $1-x=\cos^2 \theta=1$  であるから  $\sin \theta=0$ ,  $\cos \theta=\pm 1$

$\therefore \theta = n\pi$  ( $n$  は任意の整数)

$$\text{いま, } \lim_{\theta \rightarrow 0} \frac{\sin n\theta}{\sin \theta} = \lim_{\theta \rightarrow 0} \left( \frac{\sin n\theta}{n\theta} \right) \cdot n \cdot \left( \frac{\theta}{\sin \theta} \right) = n$$

であるが,  $\theta \rightarrow 0$  のとき  $x=\sin^2 \theta \rightarrow 0$  であるから

$$(4) \lim_{\theta \rightarrow 0} F(\theta) = \lim_{x \rightarrow 0} F(x) = F(0)$$

が成り立つ.

したがって, (4)より, 関数

$$F(x) = \begin{cases} \frac{\sin n\theta}{\sin \theta} & (x \neq 0) \\ n & (x = 0) \end{cases}$$

は  $x=0$  において連続である。

すると、(1)で  $\cos \theta=1$  となり、 $cx_1x_2x_3\cdots x_m=n$  であるから

$$(5) F(x)=\frac{\sin n\theta}{\sin \theta}=n\left(1-\frac{x}{x_1}\right)\left(1-\frac{x}{x_2}\right)\cdots\left(1-\frac{x}{x_m}\right)$$

## 5. 無限乗積

$n\theta=t$  とおくと、 $\theta=\frac{t}{n}$  であるから、(3)と(5)より

$$\sin t=n\sin\frac{t}{n}\left(1-\frac{x}{x_1}\right)\left(1-\frac{x}{x_2}\right)\cdots\left(1-\frac{x}{x_m}\right)$$

ここで、 $k=1, 2, \dots, m$  として

$$\begin{aligned} \frac{x}{x_k} &= \left(\frac{\sin\frac{t}{n}}{\sin\frac{k}{n}\pi}\right)^2 \\ &= \left(\frac{\sin\frac{t}{n}}{\frac{t}{n}}\right)^2 \cdot \left(\frac{\frac{t}{n}}{\frac{k}{n}\pi}\right)^2 \cdot \left(\frac{\frac{k}{n}\pi}{\sin\frac{k}{n}\pi}\right)^2 \end{aligned}$$

$n \rightarrow \infty$  のとき  $n\sin\frac{t}{n} \rightarrow t$

また、 $k$  が十分大きい整数  $N$  のとき、例えば  $N=\sqrt{n}$  とすると

$$\frac{k}{n}\pi = \frac{N}{n}\pi = \frac{\sqrt{n}}{n}\pi = \frac{1}{\sqrt{n}}\pi$$

よって、 $n \rightarrow \infty$  のとき  $\frac{k}{n}\pi \rightarrow 0$

$$\therefore \left(\frac{\frac{k}{n}\pi}{\sin\frac{k}{n}\pi}\right)^2 \rightarrow 1 \quad \text{よって} \quad \frac{x}{x_k} \rightarrow \left(\frac{t}{k\pi}\right)^2$$

したがって、三角関数  $\sin t$  は、次のように無限乗積の形に表せる。

$$(6) \sin t = t \prod_{k=1}^{\infty} \left\{1 - \frac{t^2}{(k\pi)^2}\right\} \\ = t \left(1 - \frac{t^2}{\pi^2}\right) \left\{1 - \frac{t^2}{(2\pi)^2}\right\} \left\{1 - \frac{t^2}{(3\pi)^2}\right\} \cdots \\ \cdot \left\{1 - \frac{t^2}{(N\pi)^2}\right\} \cdots$$

## 6. ウォリスの公式

$$(6) \text{式で } t = \frac{\pi}{2} \text{ とおくと} \quad 1 = \frac{\pi}{2} \prod_{k=1}^{\infty} \left\{1 - \frac{1}{(2k)^2}\right\}$$

よって

$$\prod_{k=1}^{\infty} \frac{1}{1 - \left(\frac{1}{2k}\right)^2} = \prod_{k=1}^{\infty} \frac{(2k)^2}{(2k+1)(2k-1)} = \frac{\pi}{2}$$

すなわち

$$\frac{2^2}{1 \cdot 3} \cdot \frac{4^2}{3 \cdot 5} \cdot \frac{6^2}{5 \cdot 7} \cdots \frac{(2n)^2}{(2n-1)(2n+1)} \cdots = \frac{\pi}{2}$$

## 7. テイラー展開

(6)より、関数  $f(t)=\sin t$  は

$$f(t)=\sin t = a_1t + a_3t^3 + a_5t^5 + a_7t^7 + \cdots$$

と表せる。ところで、 $\sin t$  は  $t$  の全区間で、連続かつ  $n$  回微分可能である。

したがって、微分法から

$$f'(t) = \cos t = a_1 + 3a_3t^2 + 5a_5t^4 + 7a_7t^6 + \cdots,$$

$$f''(t) = -\sin t = 6a_3t + 20a_5t^3 + 42a_7t^5 + \cdots,$$

$$f^{(3)}(t) = -\cos t = 6a_3 + 60a_5t^2 + 210a_7t^4 + \cdots,$$

$$f^{(4)}(t) = \sin t = 120a_5t + 840a_7t^3 + \cdots,$$

$$f^{(5)}(t) = \cos t = 120a_5 + 2520a_7t^2 + \cdots,$$

$\cdots$

各式で  $t=0$  とおけば、 $a_1=1$ 、 $a_3=-\frac{1}{3!}$ 、

$a_5=\frac{1}{5!}$ 、 $a_7=-\frac{1}{7!}$ 、 $\cdots$  となり、 $\sin t$  のテイラー展開式

$$(6) \quad \sin t = t - \frac{1}{3!}t^3 + \frac{1}{5!}t^5 - \frac{1}{7!}t^7 + \cdots$$

を得る。

## 8. オイラー級数

(6)と(6)'の  $t^3$  の係数比較により

$$\left(\frac{1}{\pi}\right)^2 + \left(\frac{1}{2\pi}\right)^2 + \left(\frac{1}{3\pi}\right)^2 + \left(\frac{1}{4\pi}\right)^2 + \cdots = \frac{1}{3!}$$

これより  $1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \cdots = \frac{\pi^2}{6}$

すなわち  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} = \frac{\pi^2}{6}$

## 9. $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(2n-1)^2} = \frac{\pi^2}{8}$ について

$G(x)$ 、 $\cos x$  の無限乗積表示についても、同様にして、考えることができる。方程式  $G(x)=0$  の  $m$  個の解を  $x=x_0, x_1, x_2, \dots, x_{m-1}$  とすると

$$G(x) = \frac{\cos n\theta}{\cos \theta} \\ = c(x_0-x)(x_1-x)(x_2-x)\cdots(x_{m-1}-x)$$

$\cos n\theta=0$  より  $\theta = \frac{2k+1}{2n}\pi$  であるから

$$x_k = \sin^2 \frac{2k+1}{2n}\pi \quad (\text{ただし、} k=0, 1, 2, \dots, m-1)$$

また、 $G(0)=1=cx_0x_1x_2\cdots x_{m-1}$  であるから

$$G(x) = \frac{\cos n\theta}{\cos \theta} \\ = \left(1 - \frac{x}{x_0}\right) \left(1 - \frac{x}{x_1}\right) \cdots \left(1 - \frac{x}{x_{m-1}}\right)$$

ここで、 $n\theta = t$  とおくと

$$\cos t = \cos \frac{t}{n} \prod_{k=0}^{n-1} \left(1 - \frac{\sin^2 \frac{t}{n}}{\sin^2 \frac{2k+1}{2n} \pi}\right) \\ \frac{\sin \frac{t}{n}}{\sin \frac{2k+1}{2n} \pi} = \frac{\sin \frac{t}{n}}{t} \cdot \frac{t}{2k+1} \cdot \frac{2k+1}{2n} \cdot \frac{2k+1}{\sin \frac{2k+1}{2n} \pi}$$

$n \rightarrow \infty$  のとき、 $\frac{t}{n} \rightarrow 0$  であるから

$$\cos \frac{t}{n} \rightarrow 1, \quad \frac{\sin \frac{t}{n}}{\frac{t}{n}} \rightarrow 1$$

また、 $k$  が十分大きい整数  $N$  のとき、例えば  $N = \sqrt{n}$  のとき

$$\frac{2k+1}{2n} \pi = \frac{2N+1}{2n} \pi \\ = \frac{2\sqrt{n}+1}{2n} \pi = \left(\frac{1}{\sqrt{n}} + \frac{1}{2n}\right) \pi$$

よって、 $n \rightarrow \infty$  のとき  $\frac{2k+1}{2n} \pi \rightarrow 0$

$$\therefore \frac{\frac{2k+1}{2n} \pi}{\sin \frac{2k+1}{2n} \pi} \rightarrow 1$$

したがって、関数  $\cos t$  は、次のように無限乗積の形に表される。

$$(7) \quad \cos t = \prod_{k=0}^{\infty} \left(1 - \frac{t^2}{\left(\frac{2k+1}{2} \pi\right)^2}\right) \\ = \left(1 - \frac{t^2}{\left(\frac{1}{2} \pi\right)^2}\right) \left(1 - \frac{t^2}{\left(\frac{3}{2} \pi\right)^2}\right) \left(1 - \frac{t^2}{\left(\frac{5}{2} \pi\right)^2}\right) \cdots \\ \cdot \left(1 - \frac{t^2}{\left(\frac{2N-1}{2} \pi\right)^2}\right) \cdots$$

いま、 $g(t) = \cos t = b_0 + b_2 t^2 + b_4 t^4 + b_6 t^6 + \cdots$

とおくとき、関数  $\cos t$  は、 $t=0$  において、連続かつ  $n$  回微分可能であるから

$$g'(t) = -\sin t = 2b_2 t + 4b_4 t^3 + 6b_6 t^5 + \cdots, \\ g''(t) = -\cos t = 2b_2 + 12b_4 t^2 + 30b_6 t^4 + \cdots,$$

$$g^{(3)}(t) = \sin t = 24b_4 t + 120b_6 t^3 + \cdots,$$

$$g^{(4)}(t) = \cos t = 24b_4 + 360b_6 t^2 + \cdots,$$

.....

各式で、 $t=0$  とおくと

$$b_0 = 1, \quad b_2 = -\frac{1}{2!}, \quad b_4 = \frac{1}{4!}, \quad b_6 = -\frac{1}{6!}, \quad \cdots$$

すなわち、「 $\cos t$  のテイラー展開」の式

$$(7) \quad \cos t = 1 - \frac{1}{2!} t^2 + \frac{1}{4!} t^4 - \frac{1}{6!} t^6 + \cdots$$

が得られる。

(7) と (7)' の  $t^2$  の係数を比較して

$$\left(\frac{2}{\pi}\right)^2 + \left(\frac{2}{3\pi}\right)^2 + \left(\frac{2}{5\pi}\right)^2 + \cdots = \frac{1}{2!}$$

よって  $1 + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{5^2} + \cdots = \frac{\pi^2}{8}$

すなわち  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(2n-1)^2} = \frac{\pi^2}{8}$

## 10. 入試問題に戻って考えてみよう

次に、等式(1)を  $n$  の値が 3 つのときについて、確かめてみると 3 倍角の公式  $\sin 3x = 3\sin x - 4\sin^3 x$

より  $\frac{\sin 3x}{\sin x} = 3 - 4\sin^2 x = 3\cos^2 x - \sin^2 x$

$$\therefore F(\theta) = \frac{\sin 3x}{\sin x} = {}_3C_1 \cos^2 x - {}_3C_3 \sin^2 x$$

また、正弦の加法定理により

$$\sin(n+1)x - \sin(n-1)x \\ = (\sin nx \cos x + \cos nx \sin x) \\ - (\sin nx \cos x - \cos nx \sin x) \\ = 2\cos nx \sin x$$

よって  $\frac{\sin(n+1)x - \sin(n-1)x}{\sin x} = 2\cos nx$

同様にして  $\frac{\sin(2n+1)x - \sin(2n-1)x}{\sin x} = 2\cos 2nx$

したがって、 $f_3(x) = \frac{\sin 3x}{\sin x}$  のとき、定積分

$I_3 = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} f_3(x) dx$  の値は

$$I_3 = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin 3x}{\sin x} dx = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (3 - 4\sin^2 x) dx \\ = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \{3 - 2(1 - \cos 2x)\} dx \\ = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (1 + 2\cos 2x) dx = \left[x + \sin 2x\right]_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} = \pi$$

また  $\int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} 2\cos 2nx dx = \left[\frac{1}{n} \sin 2nx\right]_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} = 0$

よって、 $f_{2n+1}(x) = \frac{\sin(2n+1)x}{\sin x}$  のとき、定積分

$I_{2n+1} = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} f_{2n+1}(x) dx$  の値は、 $I_{2n+1} - I_{2n-1} = 0$  より

$$I_{2n+1} = I_{2n-1} = \dots = I_3 = I_1$$

$I_1 = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} dx = \pi$  であるから、 $I_{2n+1} = \pi$  となる。

次に、 $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin nx}{\sin x} dx$  とおくと

$$\begin{aligned} I_{n+1} - I_{n-1} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} 2 \cos nx dx \\ &= \left[ \frac{2}{n} \sin nx \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{2}{n} \sin \frac{n\pi}{2} \end{aligned}$$

したがって、 $m$  を任意の整数とすると

(ア)  $n=2m$  の場合

$$I_{n+1} - I_{n-1} = I_{2m+1} - I_{2m-1} = \frac{1}{m} \sin m\pi = 0$$

$$\therefore I_{2m+1} = I_{2m-1} = \dots = I_3 = I_1$$

$I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} dx = \left[ x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2}$  であるから

$$I_{2m+1} = \frac{\pi}{2}$$

(イ)  $n=2m-1$  の場合

$$\begin{aligned} I_{n+1} - I_{n-1} &= I_{2m} - I_{2m-2} \\ &= \frac{2}{2m-1} \sin\left(m\pi - \frac{\pi}{2}\right) \\ &= (-1)^{m+1} \frac{2}{2m-1} \end{aligned}$$

このとき

$$I_{2m} - I_{2m-2} = (-1)^{m+1} \frac{2}{2m-1},$$

$$I_{2m-2} - I_{2m-4} = (-1)^m \frac{2}{2m-3},$$

.....

$$I_2 - I_0 = (-1)^2 \frac{2}{1}$$

$m$  個の式を辺々加えて

$$I_{2m} - I_0 = 2 \left( 1 - \frac{1}{3} + \frac{1}{5} - \dots + (-1)^{m+1} \frac{1}{2m-1} \right)$$

$I_0 = 0$  であるから  $I_{2m} = -2 \sum_{k=1}^m \frac{(-1)^k}{2k-1} = -2S_m$

すなわち、(ア)、(イ)より

$$I_n = \begin{cases} 0 & (n=0) \\ \frac{\pi}{2} & (n=2m+1) \\ -2S_m & (n=2m) \end{cases}$$

## 11. こんな指導も可能か?

次に、 $1 + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{5^2} + \frac{1}{7^2} + \dots = \frac{\pi^2}{8}$  の結果を用い、

級数  $1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \dots$  の値を求める (これは

絶対収束級数であるから、一般項  $a_n = \frac{1}{n^2}$  に対し

て、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^2} = 0$  より、収束する)。

$$S = 1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} + \frac{1}{6^2} + \dots$$

とおくと

$$\begin{aligned} S &= \left( 1 + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{5^2} + \dots \right) + \left( \frac{1}{2^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{6^2} + \dots \right) \\ &= \frac{\pi^2}{8} + \frac{1}{4} S \end{aligned}$$

よって、 $S - \frac{1}{4}S = \frac{\pi^2}{8}$  であるから

$$\sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{k^2} = 1 + \frac{1}{4} + \frac{1}{9} + \frac{1}{16} + \frac{1}{25} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

となる。

また、 $1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$  の結果を用いて、

級数和  $1 + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{5^2} + \dots$  の値を求めるには (これ

も絶対収束級数であるから、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{(2n-1)^2} = 0$  より、

収束する)

$$\begin{aligned} &1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} + \frac{1}{6^2} + \dots \\ &= \left( 1 + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{5^2} + \dots \right) + \left( \frac{1}{2^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{6^2} + \dots \right) \\ &= S + \frac{1}{4} \left( 1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \dots \right) \\ &= S + \frac{1}{4} \cdot \frac{\pi^2}{6} = \frac{\pi^2}{6} \end{aligned}$$

したがって  $S = \left( 1 - \frac{1}{4} \right) \frac{\pi^2}{6} = \frac{\pi^2}{8}$

### <参考文献>

内田虎男 「級数論(下)」 槇書店

遠藤一成 「 $\pi$ の近似について」 数研通信 No.35

(東京都桜美林高等学校)